

Face to Face



TICOは保健医療・農村開発などの分野で、アフリカ・アジアで支援活動を行っている国際協力NPO法人です。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々とわかち合い、私たち自身のライフスタイルを振り返るとともに、地域の精神文化の昂揚に寄与することを目的としています。

TICO 季刊ニュースレター

No.27 2011年10月号

ザンビア 歌って踊って啓発劇

演劇による健康に関わる知識・情報の啓発活動が進んでいます。

☞p.2-3

ザンビア 農村開発ローン

新しく養鶏を始めた3人のお母さんグループの奮闘をお届けします。

☞p.4

徳島/ザンビア 新事業、新職員紹介

徳島県より委託を受けて新しいプログラム開発を新職員と進めています。

☞p.5

事務局

TICOサポーターの声、「支援のカタチ」

☞p.6

事務局長のつぶやき

☞p.8

カンボジア 医師の日本招へい

5月に続き9月、プノンペン市保健局の医療従事者2名を招へいし、研修を実施しました。

☞p.7

東日本大震災、原発事故、台風豪雨から学んだこと

やはり持続可能な循環型社会の構築しかない！

TICO 代表 吉田 修

震災後、停電やガソリン欠乏がいかに現代日本人の生活を困難にするか、普段の暮らしがいかに原発や化石燃料からのエネルギーに依存しているかを、思い知らされた。

その上に、原発事故で改めて原発の恐怖、管理の困難さ、ずさんさ、推進派の非合理的な安全根拠、情報操作、なれ合いの監視体制、御用学者の存在などに愕然とした。さらに、この夏の電力不足騒ぎは何だったのか？もちろん企業も家庭も節電努力をしたが（いや、むしろこれまでの温暖化対策

が本気でなかったと言うべきか）、これだけの原発が止まっても大規模停電もなく計画停電も必要なかった。マスコミもぐるになった電力業界の「おどし」であったのだ。しかし結局、最大の問題は、人任せにしてきた国民の無関心さであったかも知れない。

また、台風12号の豪雨による被害も甚大であった。1800mmもの降雨は驚愕である。そのエネルギーは海水温の上昇からもたらされた、すなわち地球温暖化が原因であろう。

以前からTICOが訴えてきたように、我々は脱原発・脱化石燃料を実現し、自然エネルギーに依って生きていくしかない。幸い自然エネルギーは、密度は低いが無尽蔵である。

世の中には既にこの持続可能な循環型社会

「エコ・ビレッジ」を実践している人達がたくさん存在する。有機農業と自然エネルギーを基盤とするスローで健康的な村である。例えば、一昔前の日本の里山をうまく管理していた村+総合的自然エネルギー利用・最新のコンピューター管理の送電/蓄電システム（スマートグリッド）といったイメージである。

また、医師の目から見て「エコ・ビレッジ」の暮らしは、そのままメタボ対策、生活習慣病対策になり、癌の抑制にもなる可能性がある。体を動かし、旬の野菜を食べ、自然の中でできるだけ化学物質を使わずに人間的に生活する。「LOHAS（ロハス）リゾート」と言ってもいい。

これからの残りの人生、徳島とザンビアでぜひ「エコ・ビレッジ」「LOHASリゾート」を実現させたい。



4月13日～23日にかけて実施した東北被災地支援で石巻市を訪問看護中の様子。



よしだ・おさむ：自称兼業農家（外科医）
徳島県出身。アフリカをはじめ世界各国にて国際医療支援活動を実施。現在吉野川市山川町のさくら診療所で地域医療を実践しながら、代表としてTICOを運営。



小水力発電。少しの落差で発電が可能。

歌・劇・踊りで伝えたい！

啓発劇スキルアップ研修 実施



モンボシにて啓発劇を披露するSMAGメンバーたち

8月2日より4日間、モンボシにて啓発劇に関する研修を実施しました。まず、「啓発劇とはなんぞや?」「住民に効果的にメッセージを伝えるためにはどうしたらいいか?」を学び、さらに妊娠・出産、家族計画、HIV/AIDS、栄養に関することなど、様々な保健知識が盛り込まれた劇や歌をマスター。研修最終日には、研修の成果品である啓発劇・歌をモンボシ小学校と商店街の2ヶ所で披露しました。

歌や踊りが大好きなザンビアの人達

アフリカの人たちの多くは、歌や踊りが大好きです。アカペラは当たり前！楽器なんて必要ありません。結婚式はもちろん会議や研修の場でだって、チャンスさえあれば踊り始める、そんな愉快なザンビアの人たち。時には作詞作曲だって即興でしちゃいます。歌と踊りがあるところにザンビア人あり！音楽は、ザンビア人を

引き付ける大きな魅力なのです。これを活かさない手はありません。

効果的に「気付かせる (Sensitization)」ために

それぞれの地域で活躍してくれている『安全なお産支援グループ（以下、SMAG；Safe Motherhood Action Group, スマッグ）』にとって、健康に関わる知識・情報の住民への普及は大切な仕事のひとつ。

「家族計画って何？ どうして必要なの？」

「安全に出産するにはどうしたらいいの？」

「HIV/AIDSの母子感染を防ぐにはどうしたらいいの？」



啓発劇にはたくさんの人が集まってくれた



研修の様子

チボンボ郡 地域住民が支える安全な妊娠/出産事業

酒井浩子（保健医療専門家）、滝川麻衣（業務調整員）

こういった様々な保健に関する疑問に答えるべく、一生懸命に活動を行ってくれているSMAGメンバーですが、効果的な啓発の方法には悪戦苦闘。一方的講義では相手は退屈して最後まで聴いてくれません。それじゃあ劇で伝えようということで、自分たちで劇を創作し披露していたメンバーもいたものの、何せみんな素人さん。「え？結局何を伝えたかったの？」と、見る側からすればよく分からないオチなし劇も・・・。

「ならば歌と踊りをSMAGの活動に利用しよう！」

そんなこんなで、より多くの人を集められて、かつ楽しませながら知識を普及できる方法である「演劇」のスキルを身につけようと4日間の研修プログラムが組まれました。

飛躍的によくなったメンバーの演技力、研修は大成功！

SMAGとサブSMAG合わせて約200人のメンバーから希望者を30人募り、研修は開かれました。講師は、アート系NGO団体の“UMODZI（ウモジ）”からお招きした、おしゃれな2人のザンビア人男性。研修最終日には、実際に村で歌と踊りで人を集めて劇を披露したのですが、4日間の成果は劇を見ると一目瞭然でした。声の出し方から身体の動きといった、観衆への「見せ方」のスキルが格段にアップしているのです！笑いをとる場面ではコミカルな動きとセリフで観衆の笑いを誘い、シリアスな場面では深刻な表情と声で観客を引き込みます。なにより劇を演じているSMAGメンバーの顔には自信が溢れていました。

研修に参加したSMAGメンバーは、各地域に戻ったあと演劇グループを結成し、更なる技術の鍛練と地域住民への啓発を行うことになっています。



啓発劇の練習の様子

走り出したばかりの演劇グループの活動ですが、今後の活躍が非常に楽しみです。全身を使ってメッセージを伝える演劇という啓発手段が、地域住民の更なる気付きを促す一助となってくれることを期待します。

- 2010年10月から始まった、ザンビア・チボンボ郡モンボシにて安全な妊娠・出産のための環境づくりを目標としたプロジェクト。
- JICA（国際協力機構）から「草の根技術協力事業」として委託を受けています。

ザンビア/チペンビ小規模農村開発ローン 黒田晶子（業務調整員）

「ミルル」グループ 養鶏事業開始

TICOでは、農業収入に偏りがちな農村地域での農家の収入機会の向上、多様化を促進するため、チボンボ郡チペンビ地区で小規模農村開発ローン支援を行なっています。この支援は支援者の皆様からいただいたご寄付をもとに、“ビジネスを始めたいが先立つものが無い”という小規模農家のグループに無利子で貸し付けを行い、事業の売り上げから1年でローンを返済してもらおう、というものです。

6月に「ミルル」グループがローンを締結、養鶏ビジネスを開始する運びとなりました。

ミルルのメンバー、エメルダさん、エステテさん、ロウエンダさんは3人共小学校に通うお子さんを持つお母さんです。「こども達は私達の未来への希望よ！」と熱く語る3人。今回のローンの申請はこどもたちの学費を捻出するため、ローンを元手に地鶏を購入、繁殖させて村で販売するというものです。ザンビアでビ



ザンビアの地鶏

レッジチキンと呼ばれる地鶏は、一般的なブロイラーよりも身が締まっており、コクのある味わいから村でも多くの需要があります。幸い現在近くで養鶏事業を行なっているグループは無いため、ミルルグループの新事業には期待が高まります。

今では無事に事業を始められた事で安堵の表情を浮かべる3人ですが、3人が養鶏事業を始めるまでには様々なハードルがありました。

TICOにローンの申請をするにあたり、村の小さな教会で事業についてのミーティングを続けていた3人。そんな中、メンバーの夫の1人が妻をミーティングに行かせることに反対し始めることもありました。「事業にばかり気をとられて、肝心の家の仕事や畑の世話はどうするんだ！」というのが夫の言い分でした。女性の地位がまだまだ低いザンビア。パートナーが金銭的に自立することに不安を感じる男性も少なくないようです。グループメンバー3



人とコーディネーターのンジョブさん（写真左）はこの夫を含めてミーティングを行い、事業を通じて収入が増えれば、家族全員に利益がもたらされることを何度も説明し、無事彼の了解を得たのでした。

事業開始前にメンバーは養鶏とマネージメントに関するワークショップを受講しましたが、ここでも問題がメンバーを待ち構えていました。なんと3人とも計算が大の苦手だったのです。急遽ワークショップの日程を延長し、位取りの仕方を勉強したり、九九の表を活用して苦手な会計を克服し、なんとかワークショップを終了することができました。

事業資金を手に入れ、養鶏事業を開始した3人。メンバーの出産や病気なども重なりましたが、村で地鶏を飼育している人から少しずつ鶏を購入し始めました。鶏を囲っておくためのケージを作るための金網も購入、着々と養鶏事業の準備は進んでいます。



会計の勉強中

1年で返済を目指す3人への応援を今後もどうぞよろしく願い致します。

猫目線



はじめまして。わたくし、TICOのタダ飯食い、猫のチャイ（♀）と申します。今回初の試みですが、ルサカから猫レポートをお送りさせていただきます。

最近のこちらの人間達の話は、9月20日の大統領選挙です。新聞・テレビでも連日選挙の話が報道されています。昨晚ご主人と一緒に見ていたテレ

ビでも、繰り返し選挙宣伝ソングが流れていました。あまりに同じ曲ばかり流れるので、歌を覚えたご主人がテレビの中の人達と「投票しよう、投票しよう♪投票券は売買しないで〜♪」と歌いはじめる始末。いやしかし、大統領選挙の投票券が売り買いされるものだと、知りませんでしたね。一体いくらで売れるものなのでしょう。

ところで今の大統領の顔は、私自身何度か拝見したことがあります。というのも、あらゆる所にお写真が飾られているからです。そのお写真がちよっと恐い顔で写ってたりするので、もっといい写真選べばよかったのに、なん

て失礼なことをうちのご主人がよく言っていることは内緒です。

人間というのは自分の意思で「選択」できることに幸福を感じるのだとか。ということは、国民が「選択」できる機会を増やせる大統領ほど、ご主人たち人間を幸せにしてくれるということですね。猫一同、そんな大統領が選ばれることを、お祈りしております。にゃー。

*9月23日に開票が行われ、野党愛国戦線（PF）のサタ候補が現職のバンダを破り、当選しました。

国際保健医療と地域医療で活躍できる人材の育成に向けて

新 事 業

保健医療分野での国際協力に関心を持つ医療従事者は、国内の地域医療にも強い関心があります。しかしながら、国際協力に関心を持ちながらも、どう始めればよいのか分からない、仕事が多忙で余裕がない、帰国後の生活が成り立つのか先が見えない、といった不安を抱える医療従事者は多く、また彼らの志を支える職場や仕事は非常に限られています。その一方で、徳島県の地域医療は崩壊の危機にあり、人材確保が喫緊の課題となっています。

そこで、国際貢献を志す医師が徳島県に集まる仕組みを構築すべく、諸機関と連携しながら県内医療機関における勤務や研修と、

着任の ご挨拶

この度、徳島の素晴らしい自然の中で、TICOでの業務に携わる機会をいただけたことを、心より嬉しく思っています。私は、若い頃に苦勞をしながら海外で生活をした両親の話を聞いて育った関係で、子供の頃から漠然と外国に関心がありました。そして、大学の交換留学で得た経験や出会いを通して、以前より客観的な視点で日本を捉え「地球人として生きる」ことを考えるようになり、大学卒業後に将来を模索していたところ、TICOと出会いました。

医療はどの社会においても必要不可欠であり、大きな影響力を持つものです。志を持つ医師の方々が、国際保健医療と地域医療の二つのフィールドで、まさに地球規模で医療に携わることができるような環境作りを目指すこのプログラムは、非常に意義のあるものであると感じています。また、このプログラムは地域から世界を変えるきっかけの1つになると考えています。医療面だけで

海外での協力・研究活動等を組み合わせた魅力ある「受入プログラム」の開発を、今年8月から進めています。

本事業は、国の緊急雇用創出事業のうち「重点分野雇用創出事業（事業主体は都道府県）」として、徳島県より委託を受けて実施するものです。

委託期間は2012年3月末まで。どのようなプログラムであれば、実現可能かつ魅力的で、国際保健医療と地域医療の双方で活躍できる人材の育成に寄与することができるのか、先進事例やターゲット層へのアンケート調査などを通じて、探っていきます。

はなく、世界の様々な問題について深い関心を持ち、グローバルな視点を持った医師が、地域にその経験や知識を還元する。こういった人材は、日本だけでなく世界全体の財産といえるのではないのでしょうか。私は、多くの人々の協力のもと実現した留学を通して、期間は1年と限られてはいましたが、様々なことを学ぶことができました。次は、熱意を持つ医師の方々が日本の外へと羽ばたき、日本の地域医療に携わることができるような環境作りに関わることで、少しでもそのお返しができたらと思います。

まだまだ未熟ではありますが、色々なことを吸収しながら、少しずつでも確実に前進していけるように、日々頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。



伏見繭子（国内業務）

T I C O Z A M B I A

着任の ご挨拶

「皆様はじめまして」、というより「お久しぶりです」と言うべきでしょうか。私はザンビアでTICO/SCDP（TICOの姉妹団体で現地のNGO）の設立当初から2000年までお手伝いさせていただき、この度ザンビア事務所長として赴任しました。TICOへは11年ぶり、ザンビアには3年ぶりに戻ってきたこととなります。ザンビアでは日本企業などで10年以上仕事をしてきましたが、TICOでの経験は今でも私の大切な宝物です。その古巣に戻ってまた活動できるチャンスをいただいたことをとても幸せに思っています。

首都ルサカはこの3年間でずいぶん変貌していました。新しいモダンなビルと南アフリカ資本のショッピングセンターが増えたのにはびっくりです。それに交通渋滞。以前から時間帯によりひどい渋滞はありましたが、今や慢性的。事務所から街中へは1時間もかかるのか。車は増える一方なのに道路はそう簡単にはつくれませんから、抜け道まで渋滞というありさまです。そして物価高。人々の給料はほとんど上がっていませんが、食料をはじめ生活必需品の値段は2倍3倍になっています。変わっていく街並みのはずれの片隅で、貧困層の生活はまったく依然と変わっておらず、貧富の差はますます大きくなっていく一方です。

私が初めてTICO/SCDPと関わったのは1996年。あれからもう15

年が過ぎようとしています。その長い間にTICOはザンビアに根を下ろし、ンゴンベ・コンパウンドをはじめとする首都ルサカの貧困層の居住地区や他の地方において、医療・農業・教育等々、多岐に渡るプロジェクトを展開してきました。「継続は力なり」。この間には沢山の人がいろいろな形で



櫻井睦子（事務所長）

関わり、いろいろな問題に遭遇し、失敗も経験してきましたが、それを乗り越えて今につながっているTICOは、ますますたくましく成長を続けているようで、創立に関わった一人としてうれしい限りです。

表面的にはずいぶん変化しているように見えるザンビアの中で、なかなか改善されない貧困層の暮らし。少しでもいい方向に、明るい方向に彼らの暮らしが向くように、持続可能な支援の形をさらに探りながらTICOがその一助となるよう、微力ではありますが今までの経験を生かしつつ、新鮮な視点を失わずお手伝いさせていただきたいと思っております。

大好きなアフリカに、もっともっと素敵な笑顔がふえますように……。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

支援のカタチ ～神園索己さんの場合～

▼DECOスクールにて。右が神園さん

私は2007年から2009年まで青年海外協力隊の隊員としてザンビアで活動しており、現地でTICOを知りました。協力隊の活動を終え日本に帰ってくると、何事もなかったように日々が過ぎ、ザンビアにいたことが夢の世界での出来事のように思えました。そこで、帰国後もザンビアとつながってほしいという想いから、TICOの会員になりました。

とはいえ、私は愛知在住ということもあり、会員になってもTICOの活動に参加できず、やはりアフリカは遠いまでした。そんな中、2010年9月の第1回TICO公募合宿の募集を見て、「これだ」と思い迷わず参加しました。吉田先生の講義や様々なワークショップが刺激的で、アフリカに住んではいたけれども、まだまだ知らないことばかりでした。合宿を通して、問題をアフリカという枠でなく地球全体のこととして考えるようになりました。そして、日本でできることをしようと決意しました。

私の所属会社（㈱デンソー）では、地域社会や地球環境の現状への関心と理解を深めることを狙い、DECO（デコ）スクールというイベントを開催しています。私はそこでアフリカのことを少しでも知ってもらいたいと思い、パネルや衣装の展示とTICO合宿



で行ったカードゲーム『チャレンジアフリカ』を実施することになりました。もしもサブサハラ以南のアフリカに生まれたらどうなるか、カードを通して学ぶのですが、イベント当日は全5回で計41名が参加してくれ、アンケート結果は高評価でした。「楽しく学べた」「同じ人間、頑張れアフリカ」「日本は恵まれている」など多くのコメントをもらいました。

アフリカ・ザンビアに直接何かをすることは難しくても、日本でできることはあり、それを実際に行動に移し、続けることが大切だと思います。現地での活動はスタッフに委ねそれをサポートできるように、今後もTICOサポーターであり続けたいと思います。

T I C O C A M B O D I A

カンボジア便り

渡部豪（保健医療専門家）

9月5-7日、保健医療専門家の渡部がカンボジア国・プノンペン市に出張しましたのでご報告します。

今回は、救急医療人材育成及び住民への啓発活動のフォローアップと、プノンペン市にあるポチェントン病院と市民病院の救急隊及び両病院の現状視察を目的に行ってきました。

トレーニング実施、自主的な啓発活動

まず、医療従事者への救急対応技術の発展的トレーニングとして「Vital sign & Diagnosis」（生命徴候；体温、脈拍、血圧、呼吸からの診断術）をポチェントン病院、市民病院の両病院で講義しました。症例を3つ出して検討したのですが、両病院とも研修受講者から活発な質疑が出て着実にレベルアップしていると感じました。

応急処置やファーストエイドに関する住民への啓発活動については、前年度に日本で研修を受けたクモイ診療所のチャ

ン・クリー医師を中心に、カンボジア人の手で地域でのワークショップを企画し、実施することになりました。

事務所運営もカンボジア人の手で

また、ポチェントン病院、市民病院の両病院の救急隊とも、昨年12月をもって日本人スタッフが現地に駐在しなくなった後も変わらず運営されており、スタッフの研修、車の整備も自ら積極的に取り組んでいることが分かりました。病院自体も、ポチェントン病院には新しくHIV病棟ができ、諸検査ができるようになっています。超音波検査の件数は伸びており、甲状腺、乳線等の検査もできるようになっています。市民病院もICU（集中治療室）はほぼ満床状態で、脳卒中などの難症例の治療に取り組んでいました。

このように救急隊も病院の機能も活発化しているにもかかわらず、課題として挙げられるのは、救急隊の運営資金の確保が困難であることです。政府からの人事・財政上の手当が十分でなく、救急隊員の人件費、救急車のガソリン代は、日本の支援者に依存している状態から脱していません。

そこで、日本から中古の消化管内視鏡を持参し、ポチェントン病院に寄贈しまし

た。そしてポチェントン病院にあった大腸内視鏡を市民病院に移しました。これでポチェントン病院では食道、胃十二指腸の検査が可能になり、市民病院では大腸の検査が可能になりました。内視鏡寄贈は、検査によって病院収入が増えることを見込んでおり、救急隊が資金的にも自立することが期待されます。

今回の出張では、5月に来日した市民病院のヘン・ロン医師を初めとした来日経験のある医師たちが英語からクメール語への通訳やコーディネーター、ファシリテーターをしてくれました。彼らの頼もしい姿を目にし、現地滞在2日間ではありましたが、実りのある訪問となりました。



寄贈した内視鏡で検査する様子



渡部豪（保健医療専門家）

カンボジア/プノンペン市医療者の日本招へい及び研修

- 5月に引き続き9月に、カンボジア
- プノンペン市保健局の医療従事者を
- 日本へ招へいし、研修を行いました
- のでご報告します。

今年2度目の受け入れ研修

既にご案内したとおり、TICOのカンボジアでの事業は、今年度より主として日本国内からの支援に切り替えています。この度9月16日から30日までカンボジア・プノンペン市保健局に所属する医師・薬剤師それぞれ1名を招き、研修を行いました。この研修事業は、従来からカンボジアでのプロジェクトを連携して行っている高松市の公益社団法人セカンドハンドと共同で実施しており、今年は5月にも2名の医師を招へいし受入研修をしています。



女性2名の招へい

今回9月に招へいしたのは、プノンペン市の公的救急隊の第1号である、ポチェントン病院救急隊のメンバーでもあり、昨年まで行っていたJICA草の根技術協力事業（パートナー型）で養成した、現地人指導者のリーダー格でもある、ニム・ナビ氏と、同じくポチェントン病院の薬剤師で、現在TICOカンボジア事業のカンボジア国内での総務を担当してくれている、イム・ソチェンダ氏の2人です。

2人ともまだ小さい子を抱える母親ですが、以前からどうしても招へいしたかった2人でもあり打診したところ、こどもを実家に預けて日本に来てくれました。

救急症例シミュレーション

研修はTICO代表の吉田が理事長を務めるさくら診療所で4日間にわたって、実施しました。救急症例をシミュレーションしての対応訓練。「意識障害の鑑別診断」、「ショックの対応」、「外傷初期対応」、「バイタルサイン（体温、脈拍、血圧、呼吸の総称）からの鑑別診断」等を盛り込み、それぞれを劇仕立てにして、さくら診療所職員に患者役・看護師役を演じてもらいました。2人とも熱心に研修に取り組み、質問攻めになることもありました。

また、基本的な心肺蘇生とAED（体外式自動除細動器）の使用の講習も行い、研修の最後には、他団体からカンボジアへ寄贈するためにTICOに預けてくださっていたAEDをポチェントン病院に贈りました。緊張感の中でも楽しく研修を終えることができました。



この他、高松市消防局での研修、徳島県美馬市の救急病院であるホウエツ病院の見学、セカンドハンドの国際協力のための支援活動のみてもらい、TICOユースの合宿にも参加していただきました。

課題の共有、今後の活躍に期待

研修の合間には意見交換も行い、カンボジアの医療事情を私たちも知ることができ、課題を共有することができました。これからのふたりのプノンペン市での活躍を期待し、今後も応援したいと思います。

事務局長 福士庸二のつぶやき

『理由（わけ）』

今、東北では大震災・津波被害の被災者支援のため、多くのボランティアが活躍している。日本にも、こんなにたくさんのボランティアがいるではないか。久しぶりに明るい兆しを感じた。

ところで、国際協力ボランティアを長くやっていると「なぜ、ボランティアをするのか？」としばしば問われることがある。そのたびに、言葉に詰まり、「理由なんかなくてもいいじゃん」と心の中で叫んでいる。

この機会に考えてみた。理由は、「思いを共有したいから」という答えに落ち着いた。手を差し伸べたとき笑顔が帰ってくると、互いの気持ちがつながったことが確認できる。こっちも、思わず笑顔がこぼれる。

棘が刺さっていたら気になるように、どこかで不幸があれば、落ち着かない。棘（不幸）がとれれば、心も晴れる。



東松島市の避難所で

ご支援ありがとうございました

TICOの国際協力活動は、皆様からの寄付金や会費によって支えられています。温かいご支援をお待ちしております。

寄付をいただいた方(書き損じはがき等含む)

佐藤文子、船津まさえ、美馬文子、河合純子、TICOサポートクラブ 今心(株)、石岡ミサオ、内藤文治、高木クニ子、日浅芳一、佐藤文子、橋本伸子、NITW、瀬戸口千佳、匿名4

新たに入会された方

徳島県協力隊を育てる会、加浦由貴、大地、加藤恵、櫻井睦子

会員を更新された方

井原宏、石田亘良、酒巻栄子、田岡敬子、寺口美香、寺田由紀、中村純子、平岡誠治、船津まさえ、峯裕恵、井内誉範・晴子、岡崎明美、吉見千

代、古川久美子、香西邦明、佐藤三千子、篠原弘子、篠原隆史、住友和子、地造津根子、白石勝美・久代、浮森和美、武田律、福井康雄、福井照実、福士美幸、鈴木薫、廣瀬文代、庄野真代、三田理化工業(株)、馬場節子、新居智次・和世、瀧浩樹、津田道子、入交秋子、中村晃一、西尾幸郎、古家聖子、工藤瑠沙香、矢野祖、木村秀樹、寺口カミコ、今心(株)、福士庸二、吉田修・益子、佐古和雄・友美、田淵幸一郎・千夏、橋本浩一、傍示桂子、吉田純、酒井浩子

●2011年7月1日～2011年9月30日分

●順不同、敬称略

●東北被災地支援へご協力いただいた方のお名前の掲載は控えさせていただいております。なにとぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

TICOへのご寄付の方法

郵便振替 — 01640-6-37649 (加入者名) TICO

銀行振込 — 四国銀行 山川支店 (店番号344)

普通 0199692

特定非営利活動法人TICO

代表理事 吉田修

カナ入力の場合は、(トクビ) テイコ

募金箱 — さくら診療所(徳島県吉野川市)に常設しています。

インターネット — TICOウェブサイトのバナー広告をクリックして、そこからお買い物していただくと、代金の一部が寄付されます。詳しくはホームページをご覧ください。

TICOへの入会方法

会員となって資金面からもTICOの活動をサポートしてくださる方を募集しています。会員の方には、TICOニュースレター“Face to Face”を毎月お送りいたします。

年会費

賛助会員	個人	¥12,000
	学生	¥6,000
	団体	¥15,000

正会員 ¥12,000

※通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい。

入会ご希望の方は、年会費を郵便振替にてお支払い下さい。郵便局備え付けの振替用紙で、次の口座へお願いいたします。

口座番号 01640-6-37649

加入者名 TICO

ご住所・ご氏名・お電話番号の他に、Eメールアドレスもお持ちでしたら通信欄にお書き添下さい。

なお、ゆうちょ銀行自動引き落とし、クレジットカード払いも可能です。詳しくはホームページをご覧ください。

TICOニュースレター Face to Face 第27号

2011年10月発行 発行人：吉田 修

編集：庄田多江

特定非営利活動法人 TICO 事務局

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4

電話/ファクス：0883-42-2271

メール：info@tico.or.jp / ウェブサイト：www.tico.or.jp